

## 報告 Report

## 吹上駅および鴻巣駅自由通路におけるフラワーデザインプロジェクト

原稿受付 2023年10月31日

ものづくり大学紀要 第13号 (2023) 49~52

松本 宏行<sup>\*1</sup>, 山田 開渡<sup>\*2</sup>, 松本 拓樹<sup>\*3</sup><sup>\*1</sup>ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロニクス学科<sup>\*2</sup>ものづくり大学 技能工芸学部 総合機械学科 卒業生<sup>\*3</sup>ものづくり大学 技能工芸学部 総合機械学科 4年生

キーワード：高大連携，地域連携，デザイン，プロジェクト

## 1. はじめに

学生プロジェクト MDP (ものづくりデザイナーズプロジェクト) は、鴻巣市からの依頼により、鴻巣駅自由通路フラワーデザインプロジェクト (2021年度)、吹上駅自由通路フラワーデザインプロジェクト (2022年度) に取り組んだ。鴻巣市および高等学校の生徒と連携しながら主導して実施したプロジェクトである。高大連携および地域連携としての取り組みとしても位置付けられるものである。これらの一連の取り組みについて報告を行う。

## 2. 学生プロジェクト MDP について

2001年、ものづくり大学が開学した当時より、デザインアート部、さらに、ハンドメイドを主眼とした monomano などのデザイン系サークルが数多くのデザイン活動を行ってきた。さらに、学生プロジェクトとして TDW (Tokyo Designers Week) PROJECT を発足後、MDP (Monotsukuri Designers Project ; ものづくりデザイナーズプロジェクト) へ改称し活動範囲をさらに広げ、ヒーローショーを行うためのヒーロースーツや道具を製作していたサークル「ものづくりプロダクション」を MDP の特撮部門として吸収統合する形で現在に至っている。総じて、手加工およびデジタル加工を駆使して学生メンバー自身が所望する作品づくりを行い、「デザインフェスタ」をはじめとする学外の展示会や学園祭展示を行っている。さらに、外部団体からの依頼に従い、ポスター、看板について制作を行うなどの実績がある。

## 3. 鴻巣駅自由通路フラワーデザインプロジェクト

2021年春に、鴻巣市総合政策課および鴻巣市観光協会より鴻巣駅自由通路にイラストレーションによる作品を配置する計画について大学の地域交流係へ打診があり、その後 MDP がとりまとめを担当することになった。高校生の作画した作品として、四季の草花、コウノトリによる作品制作に取り掛かった。作品の制作担当は鴻巣高等学校、鴻巣女子高等学校の美術部部員が担当し、手書きや CG (コンピュータグラフィックス) による作品制作を行っている。

MDP リーダである山田をとりまとめ役として、生徒が制作した作品についてスキャナーを用いてデジ

タルに変換し、細長い壁面を巨大なキャンバスに見立てて、どのように作品を配置するのかレイアウト工夫を施した。各高校の顧問教諭よりの確かなアドバイスをいただき、奥行き感のある草花のレイアウトを調整修正しながら完成に至った。その後、看板業者へデータの受け渡しを行った。

そして、2022年1月28日に鴻巣駅自由通路の両壁面約30mに一年を通じた四季の移り変わりや、鴻巣市特産品である多くの花(コスモス)やコウノトリでデザインされたフラワーデザインアート(図1, 図2)がここに完成した<sup>1), 2)</sup>。

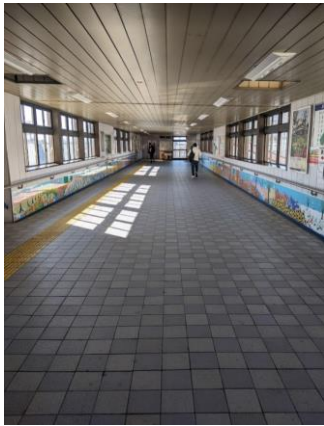


図1 鴻巣駅自由通路

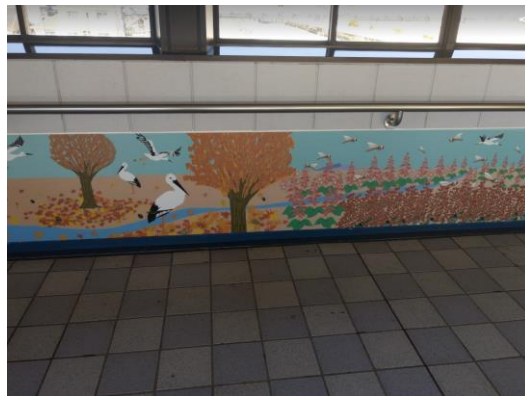


図2 鴻巣駅自由通路壁面部

完成後、全体の外観を見たときの第一印象は、「光および色の発する力強さ」である。自由通路の印象がさらに「明るく」、「華やか」になった印象を受けた。鴻巣駅自由通路に立ち寄る度に、通行人の方々が立ち止まって作品を鑑賞しているシーンを見るにつけて、今回のプロジェクトについての達成感を実感している。

#### 4. 吹上駅自由通路フラワーデザインプロジェクト

鴻巣駅自由通路フラワーデザインプロジェクトの成功、興奮冷めやらぬまま、吹上駅自由通路のデザインについて鴻巣市からMDPへの打診があった。さらに、吹上秋桜高等学校の生徒がこのプロジェクトに参画することになった。鴻巣高等学校、鴻巣女子高等学校、吹上秋桜高等学校の3校との高大連携プロジェクトとしてスタートを切った。

MDPも後輩への引継ぎのタイミングにおいて、MDPのリーダーが山田から松本へ交代となり、全体の計画を進めることとなった。前年度の鴻巣駅に係るプロジェクトは事前に自由通路において作品を配置するスペースが決定後にプロジェクトが開始されたが、吹上駅自由通路においては、関係者で現地調査を行い、作品を配置できる場所の検討から話し合いが開始された。現状の空きスペースを中心として、北口および南口の案内図を欄間に設置し、柱や窓に作品を配置することが決定された。鴻巣駅でのレイアウトなどの経験がすぐには活用できないことを認識し、手探り状態から計画を進めることになった。

夏休みや高校の文化祭シーズンを迎えて慌ただしい状況の中、生徒が制作した作品(図3)が大学に届き、スキャナーを用いてデジタル化を行い、色やレイアウトの調整、レイヤ配置(図4)を繰り返した。画像データサイズがかなり大きくなり、PCでの編集作業も困難の中ではあったが、何とかようやく進めることができた。



図3 コウノトリや花の作画

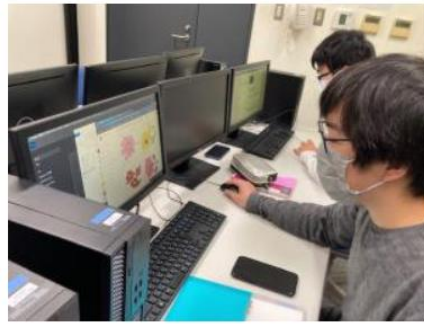


図4 作品をデジタル変換し調整作業

そして、2023年2月20日、吹上駅自由通路内に元荒川の桜並木やコスモス畑、水管橋、コウノトリが描かれたフラワーデザインアートがここに完成した<sup>3),4)</sup>。



図5 欄間に貼付した北口案内図



図6 欄間に貼付した南口案内図と柱

欄間に北口および南口の案内図を貼付し(図5, 図6), 柱は四季を彩る草花を周囲にレイアウトしたデザインになっている。また、窓についてはそれぞれの高校の生徒がデザインしたコウノトリや花を白い線画として窓に貼付を行っている(図7)。窓を開閉することで左右の窓に貼付した作品が重なり合うなどの作品としての効果も変化することも想定している<sup>5),6)</sup>。これらは、生徒が提案したアイデアを採用したものである。窓越しに視線を運ぶと、作品が窓というキャンパス上に浮かび上がり、青空や大きな雲が背景となるのを眺めていると清々しい気分になる。



図7 窓に貼付した作品例

## 5. 成果および感謝状贈呈

鴻巣駅および吹上駅の自由通路フラワーデザインにおける2つの取り組みについて鴻巣市より感謝状がそれぞれ贈呈された。さらに、ものづくり大学においては、課外活動における顕著な取り組みとして、プロジェクトに関わったMDPメンバー全員に学長より学生表彰が授与された。振り返ると2年近いプロジェクトとしての成果が実を結んだことに感慨深いものであった。

## 6. まとめ

鴻巣駅および吹上駅の自由通路をデザインするにあたり、鴻巣市観光スポットの再確認、四季を通じて咲き誇る花々やコウノトリを生徒や学生が身近に考える良い機会になったと思う。地域を知ること、高校と大学間の交流などいずれも地域交流、高大連携について実践的に行い、それらの成果を発信できたプロジェクトであった。これらの作品群が、鴻巣市を訪れる観光客にとって、目を、心を楽しませるものになるならば望外の喜びである。

## 謝 辞

このプロジェクトを実施するにあたり、プロジェクトの計画調整および作品の取り扱いでご尽力いただいた鴻巣市総合政策課、鴻巣市観光協会をはじめとする関係各位、そして、夏休みや文化祭準備の慌ただしい時期にも関わらず素敵な作品群を多数制作いただいた鴻巣高等学校、鴻巣女子高等学校、吹上秋桜高等学校の顧問教諭、生徒皆様に深く感謝申し上げる次第である。

- 1) 鴻巣市ホームページ <https://www.city.kounosu.saitama.jp/page/3151.html>
- 2) ものづくり大学ホームページ [https://www.iot.ac.jp/news\\_all/20220211/](https://www.iot.ac.jp/news_all/20220211/)
- 3) 鴻巣市ホームページ <https://www.city.kounosu.saitama.jp/page/13327.html>
- 4) ものづくり大学ホームページ [https://www.iot.ac.jp/news\\_all/20220211/](https://www.iot.ac.jp/news_all/20220211/)
- 5) ものづくり大学 モノグラム [https://www.iot.ac.jp/magazine/project/20230629\\_1/](https://www.iot.ac.jp/magazine/project/20230629_1/)
- 6) ものづくり大学 モノグラム [https://www.iot.ac.jp/magazine/research/20230830\\_1/](https://www.iot.ac.jp/magazine/research/20230830_1/)